

懐かしい宇都宮の味

「レモン牛乳」

ブレイクの秘密は、商品開発の歴史にあった！

「レモン牛乳」を知らない宮つ子は、ほんとういないでしょう。世に出てから60年以上たちますから、現役世代は年齢にかかわらず、慣れ親しんだ名称であり、味わいだと思っています。そんな「レモン牛乳」を、本誌ならではの角度でご紹介します。



懐かしい、でも新鮮な味
「レモン牛乳」

栃木県出身の漫才コンビ「U字工事」がネタに取り入れたことで、全国的に知名度が上がった「レモン牛乳」（通称。詳しくはコラム①を参照）。宮つ子ならば誰でも知っている味です。

戦後すぐに登場した「レモン牛乳」ですが、当時を知る人からは「当初は運動会などのイベントで知った」「初めの頃は、何か特別なことがないと買ってもらえなかった」という思い出も聞かれました。

現在「関東・栃木レモン」の名称で生産

している栃木乳業(株)の松倉敬士社長によれば「開発された関東牛乳さんは、原料などでもできるだけ良いものを使われておられましたから、発売当初の時代背景を考えると、今のよう気軽に買うことのできる商品ではなかったと思います」

世に出た当初は「あこがれの味」だった「レモン牛乳」。タレントのネタや、ご当地B級グルメブームなどのおかげで「まとめ買いも増えています」（松倉社長）と言われるほど手軽に飲める現在からは想像が付きません。「レモン牛乳」が誕生したのは第二次世界大戦直後、いわゆる戦後混乱期です。

初めて商品化したのは「関東牛乳」という企業。1920年代(大正)昭和初期)

では分かりませんでした。当時の製品開発・製造の苦勞について、針谷専務は、「レモン牛乳」の開発は、比較的スムーズでしたが、同時に製造していたコーヒー牛乳は、炭火に鍋をかけて、豆をドリップし、片毛ネルの袋でろ過するなど、大変だった思い出が今でもあります」と振り返ってくださいました。

「確か『レモン牛乳』は関東牛乳さんが始めた後で、私どもも作り始めたのではなかったかと思っています。逆にコーヒー牛乳などは、私どもが先行したのだと思います」（針谷社長）

「おいしいレモン」はその後、甘味料や着色料などの原料の見直しなどは行われましたが、おいしさは変わることなく現在に至っています。

こちらの質問に、お二人で話し合いながら記憶をたどってくださいました。それをお聞きしていると、当時の宇都宮で展開さ

れていた企業間の切磋琢磨——今風に言えば「製品開発競争」なのですが、そういう光景が目につかぶようでした。

「レモン牛乳」はやはり関東牛乳さんのものが有名で、弊社はどちらかというとコーヒー牛乳やフルーツ牛乳に力を入れていました。また関東牛乳さんは学校関係に強く、市内のほとんどの小学校に納入されていましたね。弊社はその分、市販に力を入れました。1969（昭和44）年にスウェーデン製のテトラパックマシンを導入し、回収の手間が省ける紙の容器ということで、スーパーや生協（コープ）への販路拡大に力を注ぎました」（針谷専務）

テトラパックは、日本では最近はまだ見かけなくなりましたが、世界的には現在も多くの飲料で使用されています。三角形の斬新なスタイルが、多くの人に歓迎されました。

「レモン牛乳」ブームの一端を担う

紙パック導入後も平行してビン生産は続けられました。

「レモン牛乳」は1985（昭和60）年までビン生産をしていました」（針谷社長）ということですから、ある年代以上の人にとっては、紙パックよりビンの形状の方が、親しみがあるのもうなずけます。「関東牛乳さんは宅配のお客様も多くお持ちでした。『レモン牛乳』

〔特集〕レモン牛乳 懐かしい宇都宮の味「レモン牛乳」ブレイクの秘密は、商品開発の歴史にあった！



〔写真／右〕「宇都宮発」とうたった「針谷おいしいレモン」
〔写真／左〕新発売ながら好評の「おいしいメロン」

に創業された、宇都宮の製乳業界でも老舗の会社でした。残念ながら同社は、後継者不足などの理由から、2004（平成16）年に廃業してしまいました。その味を惜しんだ栃木乳業が引き継ぎ、2005（平成17）年に現在の名称で復活させ、現在に至っています。今回は、そんな「レモン牛乳」の人気の秘密に迫りたいと思います。

Q1 針谷乳業株式会社

「商品開発」で切磋琢磨



針谷乳業(株) 針谷享 社長

発売当初は、毎月の集金の際に「レモン牛乳」をおまけでついたりされていたそうです。それも「レモン牛乳」に人気が出た理由のひとつでしょうね」（針谷社長）針谷乳業では早くから生協に納入してきました。当時、生協とさまざまな商品開発をしていく中で「レモン牛乳」も合成着色料をやめて、天然のものを使用し甘みも控えめにしました。現在はコープネットを通じて、関東全域に商品を納めている他、

「おいしいレモン」（当時の名称は「レモン牛乳」）を製造・販売している針谷乳業(株)の針谷享社長と針谷美智子専務に話をうかがいました。

「先代である故針谷正社長は、1954（昭和29）年に高校を卒業後、弊社に入社しましたが、その当時すでに『レモン牛乳』を製造していたと聞いています。その頃はまだ食糧難もあり、原料となる牛乳も貴重でした。もちろん甘味料も合成甘味料の時代でしたが、レモンの味覚はさっぱりとしたおいしいものでした」（針谷専務）

同社で「おいしいレモン」を開発販売した経緯については、さすがに正確な資料は残っていないとのこと、残念ながら年代ま

富山県や島根県の生協などとも取引しています。

「生協さんのお付き合いの中で、『レモン牛乳』も他県の方に知られるようになりました」

針谷社長がおっしゃるように、生協会員限定とはいえ、「レモン牛乳」を県外に広めていったことは、現在のブームの地下作りとして大きな意味を持っていたと言えるでしょう。

その後、今に至るまで同社は「おいしいレモン」を提供し続けています。現在はコンビニエンスストアや県内高速サービスエリアなどでも販売されています。

「今後は、引き続き衛生的な品質管理を重要視しながら、安全でおいしい商品づくりに努力してまいります。また、お客様からご用命をいただければ、できるかぎりご対応させていただきますので、お気軽

column 1

コラム

「レモン牛乳」に「牛乳」の文字がない理由

「レモン牛乳」という名称について、少しだけ触れます。現在、いわゆる「レモン牛乳」を製造しているのは、栃木市の栃木乳業(株)と、宇都宮市の針谷乳業(株)の2社です。それぞれの商品名は、栃木乳業が「関東・栃木レモン」、針谷乳業が「おいしいレモン」です。おや？と感じた方は、なかなか鋭い。そうです。どちらも「牛乳」という名称は使っていません。パッケージを見ると「乳飲料」とあり、成分もほとんどが牛乳なのですが……。

実はこれ、2000(平成12)年に起こった雪印乳業製品による集団食中毒事件の影響なのです。あの事件を受けて政府は、再発防止のためにさまざまな制度改革を行いました。その一つが原材料の厳格化です。具体的に言うところ、製品名への原材料表示基準が厳しくなり、生乳100%のもの以外は名称に「牛乳」がつけられなくなりました。そのため、現在「レモン牛乳」という名前の乳飲料はなくなってしまったのです(2003(平成15)年以降)。

ちなみに、そのあおりで、それまであった「コーヒー牛乳」「フルーツ牛乳」などの商品名も、すべてなくなりました。



に「相談ください」(針谷社長)
同社では今年7月から、姉妹商品である「おいしいメロン」も発売。夏を迎えて生産量も増え、新しい名物飲料となりそうな勢いです。

針谷乳業株式会社

宇都宮市東玉木町11-1
02866214626

02 栃木乳業株式会社

伝統を受け継ぐ努力と苦勞

「レモン牛乳」と聞くと、真つ先にこのパッケージを思い浮かべる方が多いのではないのでしょうか。今は、「関東・栃木レモン」の名で販売されており、栃木市の栃木乳業(株)が製造販売しています。

同社は、2004(平成16)年に関東牛乳廃業の折、「関東レモン」を同社から継承し「関東・栃木レモン」の名で製品化、



栃木乳業(株) 松倉敬士 社長

うです。

「マスコミの人氣に比例して、売り上げもじわじわ上がってきました。県外から来られた方が、お土産品としてまとめ買いされるケースが多いようです」

週末に栃木県に遊びに来た人が、コンビニや販売店で発見し、家族や会社の同僚へのお土産として、まとめて購入。月曜日ににこにこしながら配り、みんなで話題にする——そんな光景が、きつとあちこちで展開しているのでしょう。

もちろん同社でも、そんな「世の中の流れ」だけに漫然と頼っていたわけではありません。

「マスコミで取り上げられる回数が増えるにつれ、取材も多くなりました。去年は大変でしたね(笑)。それらにも、できるだけ誠実に対応しました。また、人氣に比例して注文数も増えていったのですが、例えば急な大量注文にも、できるだけお応えするよう、一丸となつてがんばりました」

さまざまな要望に、一つひとつ誠実に応える姿勢が、業者や消費者の信頼につながり、その積み重ねが今の販売実績に繋がっている、松倉社長は言います。

「それから、衛生管理。安全なものを



【写真/上】老舗の味を受け継いだ「関東・栃木レモン」
【写真/下】お土産品としても売られている「レモンヨーグルト」

市場に送り出しました。関東牛乳の廃業でがっかりしていた宮っ子ファンは、大喜びで迎えました。

それにしても、栃木市の企業が、なぜ継承することになったのでしょうか。まずは松倉社長にお聞きしました。

「『レモン牛乳』は、戦後間もなく登場し、その後さまざまな歴史を経て、ずっと親しまれてきた商品です。私どもの業界において、これだけ長い期間販売されてきた商品は、あまりありません。それを私どもの先代社長である松倉敬明・現会長が惜しんで、もともとと親交のあった関東牛乳さんに話を持ちかけたと聞いています」

とはいえ、そう簡単に継承できたわけではないようです。

「先方から製法や原料などについて詳細に教えていただき、工場長さんにも足を運んでいただいて試作したのですが、なかなか同じ味にならないのです。原料も同じ、配合も同じ、作り方も同じ。何から何まで同じはずなのですが、味は一致しない。そこが大変苦勞しました」

苦勞の原因は 何だったのでしょうか。

「例えば、パイプの径が違うだけで味が違つてしまうのです。工場設備の違いだけではどうにもなりませんから、その上で味を近づけてはならない。そこが非常に苦勞しました。自分たちで納得できる味になるまでに、数カ月かかりました」

安心して食べていただくことは基本ですから、可能な限り力を注いでいます。規則や設備導入などだけではダメで、日々の意識付けが重要だと思っています」

松倉社長は「関東・栃木レモン」の関連商品の申し出があった場合、それが食品であれば、かならず工場視察を行うといっています。

「関連商品だから、うちは関係ないという無責任なことは、言えませんか」
同社では昨年9月から「レモンヨーグルト」の販売も始めました。「レモン牛乳」の甘さとヨーグルトの酸っぱさが絶妙にブレンドされ、女性だけでなく広い層から人氣が集まっているそうです。

「商品開発の理由の一つは、日持ちです。乳飲料はどうしても1週間程度しかもちませんが、ヨーグルトであれば倍の2週間日持ちしますから、お土産品としても人氣が出るだろうなど。しかしこれも開発には苦勞しました。甘さと酸味は水と油ですから、そこで万人にのびのびと感じていただける味を醸し出すのに、3カ月ほど苦心しました」

同社は、原料もほぼすべて栃木県内から調達している、いわば「地産地消」企業。そんな

コラム

「レモン牛乳」はいつ生まれた？

実は「レモン牛乳」が誕生した年月日は、今回の取材からは突き止められませんでした。

針谷乳業の針谷社長は、現在も関東牛乳の社長と親交があるとのこと、「以前にお聞きしたところでは、そもそもの発想は「食糧難の時代に、比較的簡単に作ることができて、多くの人に喜んでもらえる商品を開発したい」ということだったようです。また私どもの先代も商品開発に熱心でしたが、やはり同じ思いでがんばっていたそうです」

終戦直後の食糧難の時代を過ぎ、とりえず生活が安定してくると、それまでの「口に入れればいい」から「おいしいもの」に変わってきます。特に戦争の間はめったに口にできなかった「滋味」「甘味」などへの欲求は強まったことでしょう。そういう時期に登場したことも、「レモン牛乳」が歓迎された一因であったと思われます。

今は「懐かしい味」でも、当時は「最先端の味」だったのです。



それだけの苦勞の末に発売した「関東・栃木レモン」だけに、味や品質には自信があるそうです。

では、おいしいの秘密、人氣の秘密はどこにあるのでしょうか。

「そうですね。さまざまにあると思いますが、作り手の立場から言いますと、原材料を良いものばかり使っていることも、大きな要因だと思います」

同社の「関東・栃木レモン」には牛乳の他に砂糖や香料などが入っていますが、それらはいずれも良い材料ばかり使っているとのこと。これは関東牛乳がそうしてきたので、そのまま継承されているのです——「通常、商品開発においては、原価を下げるのが重要な問題です。もちろん関東牛乳さんの『レモン牛乳』も同様でしたが、それでもその範囲内で、可能

な会社には引き継いでもらえた「レモン牛乳」は、とても幸せな商品ではないでしょうか。

栃木乳業株式会社

栃木市大平町川連432
02882248831

関連商品

開発の苦勞を乗り越えて ヒット商品に

いまや人氣絶好調の「レモン牛乳」だけに、関連商品もたくさん出ています。中にはちやっかり便乗しただけの商品も少なくありません。

栃木乳業の松倉社長は、先ほど触れたとおり、食品の関連商品については厳しいチェックで臨みます。それはファンを裏切りたくないという気持ちが、第一にあるからでしょう。また針谷乳業の針谷社長も、関連商品についてはファンを第一に考えておられます。

もちろん、中には両社に無断で出してしまう商品も少なくありません。けれども一方で、両社の思いに真摯に対応して商品開発に取り組む地元企業も、たくさんあります。

関連商品の中から、宇都宮市ゆかりの企業の商品をご紹介します。まずは、フタバ食品の「レモン牛乳カップ」から——。



フタバ(食品) 齊藤龍樹 取締役企画担当部長

「商品開発は苦勞しましたね。何度も何度も栃木乳業の松倉社長に味を見ていただいて。その度に首を傾げられてしまつて」

そう笑顔で振り返るのは、フタバ食品(株)の齊藤龍樹・取締役企画担当部長。商品は「レモン牛乳カップ」、いわゆるカップアイスです。コンビニエンスストアでも買えますので、味わわれた方も多いのではないのでしょうか。

同社は関東牛乳時代から、何度か関連商品を出していますが、いずれもパーアイス。それも、近年は出していませんでした。しかし、昨年マスコミに「関東・栃木レモン」が取り上げられるようになり、社内ですら「この機会に、カップアイスを作ってみよう」と企画が上がり、さっそく栃木乳業へ行ったといっています。

「その時に言われたのが『関東牛乳さんから受け継いで守っている味なので、その

03 フタバ食品株式会社

レモン牛乳カップ

ブランドを担う 「責任」の重さ

苦勞の末に送り出した「関東・栃木レモン」ですが、当時は爆発的な人氣商品というよりも、限定された地域で根強いファンのある特殊な商品でした。その風向きが変わったのは、ここ数年のこと。特集の冒頭でも触れたとおり、マスコミで取り上げられるようになったことが、大きいよ



「レモン牛乳カップ」は早くも人気商品

04 株式会社すずらん本舗 なつかしい味 レモン牛乳まんじゅう

部分を大切にしてほしい」ということ。もちろん私どももそのつもりでしたので、さっそく開発に着手しましたが、そこからが大変でした。本来、牛乳とアイスですから、まったく同じ味にすることは不可能なのです。ですからどこまで近づけられるかになるのですが、これが難しくて――5、6回は、栃木乳業さんに試食していただきました。それでようやくOKが出ましたが、苦労した分、自信はありますよ」

昨年秋頃の発売以降、人気は衰えず、当初予想の1.5倍は売れたとのことですから、見事にヒット商品です。当初は県内限定で販売していましたが、思った以上に人気が高まり、夏前には関東のほぼ全域で販売している状態になりました。

「原料には、もちろん栃木乳業さんの『関東・栃木レモン』を使用しています。また、生産は下栗工場で行っていますから、文字どおり〈宇都宮名産〉商品ですよ」と笑顔で胸をはる、齊藤取締役でした。

フタバ食品株式会社

宇都宮市一条4-1-16
☎028-634-2447



(株)ファーマーズ・フォレスト 榎木英明 課長

るものになると考えて、さっそく取り組みました」ときっかけを話してくれました。針谷乳業と組んだのは「着色がほとんどされていないこと、味がとても優しいこと、宇都宮の企業であること」などによるそうです。こちらもフタバ食品同様「アイス」と「レモン牛乳」の配分に苦労されたと言います。「針谷乳業さんの特徴である『味の優しさ』が、ソフトに練りこむとほとんど消えてしまうんです。それをどうやって表に出

(株)すずらん本舗の直営店でしか買えない「なつかしい味 レモン牛乳まんじゅう」(以下「レモン牛乳まんじゅう」)のパッケージは、まさに「関東栃木レモン」そのもの。容器の形まで紙パックを模してあります。

「昨年2月に販売開始しまして、売れ行きも好調です」と話すのは、同社の中村雅行・経営企画室長です。

便乗商品のように言われてしまいそうですが、同社が「レモン牛乳まんじゅう」開発に着手したのは、ブームの前だったそうです。

「もともととは弊社の網野匡一社長と私



パッケージも目をひく「レモン牛乳まんじゅう」



いちご味を追い抜いた「おいしいレモンソフトクリーム」

し、食べる人にわかっていただけるようになるかが、苦心のポイントでした」

最終的に、針谷乳業さんにお墨付きをもらい販売を始めたところ、たちまち人気商品となりました。

「ソフトクリームは、バニラ味が一番人気。これは現在も変わらないんですが、6月・7月は『レモン牛乳』味が二番人気で、しかももう少しでトップを奪う勢でした。うれしかったですね。宇都宮名物のいちご



(株)すずらん本舗 坂本光弘 工場長

の、ごく私的なプロジェクトだったんです。子供の頃に親しんだ味を取り入れることができたら、おもしろいですねと。それで坂本光弘工場長――彼は和菓子一筋でやってきて、海外での経験もあるベテランなのですが――試作してもらいました。ところが、上質なレモン風味のまんじゅうは出来てくるが、あの『レモン牛乳』の味がしない。」

坂本工場長も「私はもともと茨城出身で、この話が出るまで『レモン牛乳』を飲んだことがありませんでしたから、社長たちのこだわるポイントがなかなか理解できませんでした。そのあたりがいちばんの苦労でした」と苦笑します。

そんな苦労の甲斐あって、みごとに試作に成功。それを栃木乳業に持っていくところ、一回でOKが出ました。

「まだ他社が関連商品などを手がける前ですから『売れるんですか?』と逆に聞かれてしまいました(笑)」

同社の主力商品は太福や団子、甘納豆など、いずれも購買層の年齢が少し高め

を使ったソフトよりも売り上げが上がったんですから」

中心市街地の宮カフェでも、同時に発売開始しましたが、こちらは少し高級なブレNDER(他の素材と組み合わせたソフトクリーム)がメインで、おしゃれな感じが女性を中心人気とのこと。

株式会社 ファーマーズ・フォレスト

宇都宮市新里町丙254
☎028-658800

取材を始めるまでは「『レモン牛乳』で6Pも記事が作成できるのかな?」と、正

です。そこにこの「レモン牛乳まんじゅう」で若者層を取り込みたい、という狙いもあったといいます。

「お土産品としても、喜んでいただいています。今後は、真正正銘わが社オリジナルの商品開発で、顧客層の拡大につとめたいと思っています」

株式会社すずらん本舗

宇都宮市住吉町15-17
☎028-635-0003

05 株式会社 ファーマーズ・フォレスト

(ろまんちっく村)

おいしい
レモンソフトクリーム

ろまんちっく村を運営する(株)ファーマーズ・フォレストでは、今年1月から針谷乳業の「おいしいレモン」を原料に使用した「おいしいレモンソフトクリーム」を販売しています。事業統括部事業サービス課の植木英明課長は、「宇都宮を感じさせる商品開発を考えていたところ、『レモン牛乳』という素材に当たりました。有名タレントが熱心に紹介してくれていますし、転勤族が帰省した時に懐かしく食べていただけ



レモン牛乳関連商品(宮カフェ店内)

直不安もあった今回の特集でしたが、杞憂でした。泣きながら削除したエピソードが、どれだけあったことか。シンブルな商品でも、たくさんさんの逸話を持っているものだと、改めて感心しました。商品に歴史あり、継続は力なりを痛感しました。

身の回りのロングテール商品を探してみてください。きっと、いろいろなヒントがあるはずですよ。

コラム

商工会議所青年部と 「レモン牛乳」の なれそめは?

当所青年部が「地域の味を広めよう!」と「レモン牛乳」に力を入れ、イベントの度に一致団結して販売してきたことは、ご存知の方も多いと思います。

当時の会長だった上野勝弘顧問・理事にお聞きすると、「青年部は以前から11月の宮の市にブースを出していたのですが、2006(平成18)年に何か目新しいもの、新しい名物になるものを売りたいと話合って、レモン牛乳を思い出しました。私ども宮っ子は、子供の頃からこの味に親しんでいるのですが、一歩外に出ると知らない人が多い。それならば、これを取り上げることで、宇都宮の活性化に結びつきたいねということになりました」

当時脚光をあびつつあった栃木SCのチームカラーが、黄色。これを「レモン牛乳」の黄色と結びつけて何かしたいという、発想もあったそうです。

「最初の頃は、1日で1000本仕入れても売れるかどうか、という程度でしたが、最近では1日でコンスタントに1300本は売れますね。目立つのは、まとめ買い。1人で10本単位で買っていくんです。これは以前にはなかったこと。周囲の人に配ってくれるんですよ」とはいえ、当初は苦労もされていたそうです。

「イベントと同日に栃木SCの試合などがあると、そちらにも持って行って販売したこともあったんです。アウェーの方も、喜んで買っていかれましたよ。こっちは二つの会場を行ったりきたりで、大変でしたが(笑)」

その苦労もあって、最近では栃木SCが遠征に行った先で、アウェーのチームからあらかじめ大量注文が、製造元へ入るようになったそうです。

「相手を呑む、という意味合いで、試合前にサポーターがみんな飲んでくれるそうです。うれしいですね。そこまでになった基盤を、われわれ青年部が作ったんですから」

実は「レモン牛乳」販売は昨年までで、今年も行っていない。

「ここまでになれば、初期の目的は達成できたと思います。次はまた別の活性化の仕掛けをしていきます。現会長もがんばっていますし、青年部のモットーは『行動する青年部』ですから。次の行動に、乞うご期待! ということです」



商工会議所青年部
上野勝弘 顧問・理事

